

大会名 US カップ #1 XCO C1 (アメリカ・San Dimas)

BH RACING MTB TEAM 恩田祐一

日時 3月14日(土)

天候 晴れ

周回数 スタートループ + 4.2km x 7 周回

結果 53 位

キプロスでのレースを終え、そのままアメリカに移動し、US カップに参戦した。移動してあまり日がたっておらず、時差ボケが直らないままだったが、体のコンディションは良い状態でレースを迎えた。

レース前日に試走を行ったが、気温が 30℃を超え、砂埃も加わり、喉の乾き方がこれまでとは明らかに違った。砂埃で路面が見えなくなる事も予想出来るので、より集中力が必要と感じた。下りの丸太 3 本越えがコース途中にあったが、自分の技術を考えるとリスクが大きいため、回避してエスケープゾーンに行く事を決めた。

レース当日も気温が上昇し、30℃を超えていた。暑さがあったので、ギリギリまでホテルに滞在し、1時間 45 分前に会場入り。その後ウォーミングアップを行い、スタート位置についた。

今回は 100 名を越えるエントリーだったが、スタート位置はおおよそ真ん中くらいの列だった。

喉の渇きが激しい暑さの中、スタートが切られた。

スタート直後に前の選手がバランスを崩したおかげで、足を付く事になってしまい、完全に出遅れたかたちでレースに入ってしまった。100 名を越える大集団なので、なかなか前に出る事が出来ず、上りも下りもスピードを抑えざるを得ない状況で、イライラが続いた。

そんな中、下りのボコボコ区間でペダルが外れコースアウトし転倒。その間にまた多くの選手に抜かれた。2 周目の同じ所でまたペダルが外れ、コースアウト。前日の試走では問題なかった場所だったが、試走とレースは別物だという事を改めて思い知らされたかたちとなった。

3 周目以降は良いペースの選手に付いていき、ペースの落ちてきた選手を確実にパスしていった。下りも大きく離される事は無く、少しずつリズムが作れてきた。なかなか休み所の無いコースプロフィールだったが、水分補給を定期的に行い、脱水にならないように気をつけた。しかし喉の乾きは激しく、喉が貼り付きそうだった。

一人でも多くパスをと走り続けたが、1 時間を経過したところで 80%ルールにより、レースをおろされた。順位にして 53 位だった。

またしても世界の速さを痛感するかたちとなったレースだったが、この人数で走るという事、この砂埃の中で走るという事を経験出来た事はプラスになる。勝負のポイントはやはりスタート直後の位置取り。3 周目くらいからはペースの落ちる選手が多くおり、それを確実にパスしていけるので、最初の突っ込みが成功すれば、そのまま波に乗れていくと思う。

この明確な課題がわかった事が今レースの収穫だと思うので、そこを確実に改善出来るように取り組んでいきたい。

ペダルの締め付けはレース後すぐに変更し、次に備えた。

次戦は 21 日（土）に行われる XCO HC で、今遠征最後のレースとなる。帰国後どのように取り組むべきなのかを判断する為に、全力でぶつかっていきたい。

バイク : BH / Ultimate 27.5  
フォーク : SR SUNTOUR / AXON WERX  
タイヤ : SCHWALBE / RACING RALPH  
ケミカル : [HOLMENKOL](#)  
ヘルメット : Kabuto / ゼナード  
グローブ : Kabuto/ PRG-3  
サングラス : CARRERA / C-TF02 レンズ (NXT)  
時計 : POLAR / RC3 GPS (心拍 MAX185 AVG171)  
ネックレス : SEV  
ドリンク : グリコ / パワープロダクション  
サプリメント : グリコ / パワープロダクション  
インソール : ホシノ B+Insole  
パーソナルスポンサー : アークコミュニケーションズ